

特別展

時宗二祖上人

七百年御遠忌記念

国宝

一遍^{いっぺん}聖^{ひじり}絵^えと

時^じ宗^{しゅう}の名^な宝^{ほう}

Priest Shinkyo 700th Memorial Special Exhibition

ART OF THE JI SHU

2019年

4・13^(土) — 6・9^(日)

時宗の名宝を

一挙公開!



踊り念仏

（1239〜89）が鎌倉時代に開いた宗派です。一遍は念仏をとなえることで誰もが往生をとげられると説き、諸国を行脚して（遊行）、念仏札を配り（賦算）、布教につとめました。この時宗を教団として整備し、大きく発展させたのが二祖の真教（1237〜1319）でした。2019年に真教の七百年遠忌を迎えるのを記念して、時宗の名宝を一堂に会する展覧会を開催いたします。

全国各地を遍歴した一遍の生涯を描いた国宝「二遍聖絵」（清浄光寺（遊行寺）蔵）、真教の足跡もつづられた「遊行上人縁起絵」、一遍や真教ら歴代祖師の肖像画や肖像彫刻など、時宗の名宝が一堂に会します。なかでも、「一遍聖絵」は日本を代表する絵巻で、大判の絹地に当時の風景や人物が精細に描かれ、中世の歴史を語る上でも重要な作品です。全12巻を全巻公開します。

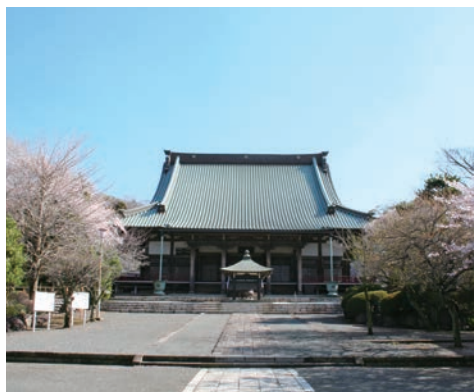
関西で17年ぶり！
国宝「二遍聖絵」全12巻を
一堂に展示

知られざる二祖真教の
功績を紹介

時宗寺院に伝えられた
名宝を一挙公開

時宗・総本山 清浄光寺（遊行寺） 紹介

鎌倉時代に成立した仏教の宗派。宗祖は一遍。一遍の没後、二祖真教が教団を確立した。時宗は阿弥陀仏の救済を説き、念仏をとなえることで往生するとした。諸国を遊行し、「南無阿弥陀仏」を記した賦算と呼ばれるお札を配り、踊り念仏を行い、広く民衆に浸透した。総本山は神奈川県藤沢市の清浄光寺で、正式には藤澤山無量光院清浄光寺と号し、「遊行寺」の名で知られる。東海道随一と称される木造本堂をはじめとした伽藍は10棟が国の登録有形文化財に登録され、文化財を数多く所蔵する。



清浄光寺（遊行寺）本堂

一遍と真教の事績

西暦	年号	年齢 (一遍)	事績	「二遍聖絵」 巻数
1237	嘉禎三		真教、誕生。	
1239	延応元	1	一遍、伊予で誕生。幼名を松寿丸という。母に死別。出家して随縁と名のる。	
1248	宝治二	10	春、僧善人と九州大宰府の聖達上人をおとずれる。この後、智真と改名する。	①
1251	建長三	13	父通広（如仏）が亡くなり、故郷に帰る。これより半僧半俗の生活を送る。	
1263	弘長三	25	この頃一念発起して再び出家する。	
1271	文永八	33	春、善光寺へこもり、秋、伊予・窪寺に閑居、念仏三昧の修行をする。	
1273	文永十	35	7月、菅生の岩屋にこもり、田園舎宅を捨てて、諸国修行に出る。	②
1274	文永十一	36	2月8日、同行三人と伊予をあとにして、遊行の旅に出る。天王寺にこもり、念仏賦算（南無阿弥陀仏と書かれたお札をくばること）をはじめめる。夏、高野山を経て熊野にこもる。熊野権現より念仏賦算の神託を受け、一遍と号す。	③
1276	建治二	38	再び伊予を通り九州へ渡り、聖達上人を訪ね、一遍の念仏を説く。豊後大友頼泰邸で真教、一遍に入門する。	④
1279	弘安二	41	12月、信濃国（長野県）佐久郡小田切の里で踊り念仏をはじめめる。	
1280	弘安三	42	秋、白河関を越えて奥州入り、江刺郡で祖父通信の墓（聖塚）をおとずれる。	
1282	弘安五	44	3月1日、鎌倉に入ろうとして武士に制止され、片瀬（神奈川県藤沢市）の地蔵堂で踊り念仏を行う。	⑤
1283	弘安四	45	閏4月16日、近江関寺から京都四条釈迦堂に入る。因幡堂・三条悲田院・蓮光院・雲居寺・六波羅密寺・市屋とめぐる。	⑥
1284	弘安七	46		⑦
1286	弘安九			⑧
1287	弘安十			⑨
1288	正応元			⑩
1289	正応二	51	8月23日、一遍、辰の始（朝7時）兵庫観音堂（現在の時宗真光寺）にて入寂する。真教、時宗を再興し遊行にでる。	⑪
1298	永仁六		真教、大病を患い、『他阿弥陀仏同行用心大綱』を記す（正応六年説あり）。	
1301	正安三		真教、越前国角鹿笥飯（敦賀県比）大神宮、伊勢神宮へ参詣する。	
1302	乾元元		真教、兵庫観音堂で一遍の13回忌を行う。	
1304	嘉元二		真教、遊行をやめ相模国当麻の無量光寺に独住。	⑫
1319	文保三		真教、1月27日83歳で示寂。	

浄土教から時宗へ

歴史の教科書でも習うように、時宗の宗祖は一遍（1239～89）です。では、念仏、そして「南無阿弥陀仏」の名号を大切にする一遍の思想は、どのような形作られたのでしょうか？その源流には阿弥陀信仰、あるいは日本で展開した浄土教があります。ほか、「一遍聖絵」などを紐解くと、さまざまな人物や場所が影響を与えていることが分かります。これらに関連する作品をご覧いただき、一遍にいたるまでの流れを概観します。



重要文化財
阿弥陀如来立像
平安・鎌倉時代 一軀 京都・知恩院蔵

知恩院の御影堂に安置される阿弥陀如来像で、浄土宗を開いた法然が臨終に際して、そばに置いていた像とも伝えられています。右肩をあらわにする袈裟の着け方は、阿弥陀如来としてはとても珍しいものです。

重要文化財
二河白道図
鎌倉時代 一幅 鳥根・萬福寺蔵

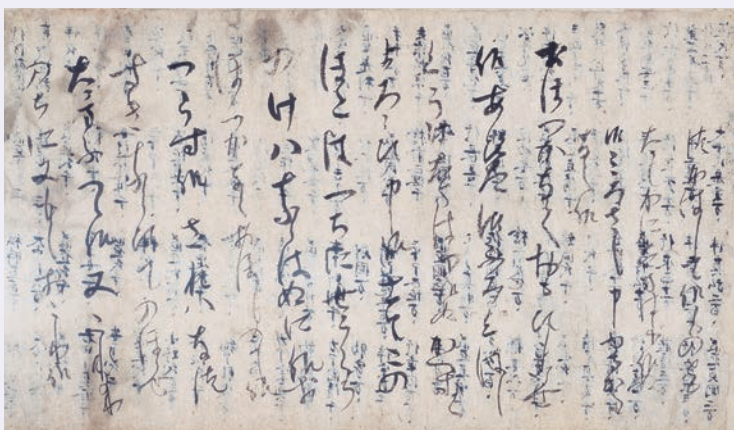
人を極楽に送る釈迦と極楽に迎える乗雲の阿弥陀を描き、阿弥陀の下には対岸から斜めに念仏信仰を示す白い道が延びています。白道の左右には瞋憎を示す火の川、貪愛を示す水の川が描かれ、煩惱を克服し極楽に往生するための唯一の道としての念仏が説かれます。



写真提供：鳥根県立古代出雲歴史博物館

重要文化財
源空証空等自筆消息
鎌倉時代 二巻 奈良・興善寺蔵

「阿弥陀如来立像」（重要文化財、興善寺蔵）の像内から、骨蔵器や錦袋とともに発見された文書。「法然房」とよばれた源空（1133～1212）、証空をはじめとした門弟たちによる自筆の手紙が大半をしめます。



二祖真教とは

真教は、京都または豊後（大分）の生まれといわれ、建治二年（1276）に九州で遊行中の一遍と出会いました。一遍の教えに感銘を受けて弟子となり、「他阿弥陀仏（他阿）」の名を授かって、全国行脚に同行しました。師の往生後には、各地に道場を建立し、時宗教団を整えるのに尽力しました。全10巻の「遊行上人縁起絵」の第5巻～10巻には、真教の足跡がつづられています。「真教上人像」（神奈川県・蓮台寺蔵）ではその真摯な表情に、在りし日の姿がしのべられます。



重要文化財 真教上人坐像（部分）
神奈川県・蓮台寺蔵

時宗と踊り念仏

時宗の代名詞ともいえる「踊り念仏」は、「一遍聖絵」によれば、信州小田切の里で始められたといえます（巻4）。武家屋敷の庭先で、一遍は縁側に立って鉢をたたいてはやし、僧尼や武士たちが輪になって踊っています。やがて、高床や屋根のついた舞台「踊り屋」が設けられ、鳴り物は鉦鼓に、踊り手は時宗の僧尼に限られるようになりました。鎌倉にはと近い片瀬の浜（巻6）や、京都の市屋道場で行われた踊り念仏（巻7）には大勢の見物人が押しかけ、熱狂する様子が描かれます。時宗では今も踊り念仏が受け継がれ、法要の時に奉納されています。



国宝 一遍聖絵 巻七（踊り念仏の場面）東京国立博物館蔵

時宗の教え一遍から真教へ

時宗宗祖の一遍は、各地を遊行して南無阿弥陀仏と書かれた念仏札をくぼる賦算や、輪になって踊りながらひたすら阿弥陀の名を唱える踊り念仏などを通じて、庶民からの信仰を集めました。一遍は遊行を自身一代限りと考えていたようですが、二祖真教はその跡を継ぎ、教団の組織化をはかりました。ここでは両上人の肖像やゆかりの品にぐわえ、遊行上人の足跡を偲ばせる作品などから、時宗初期の様相と信仰の姿をご覧ください。



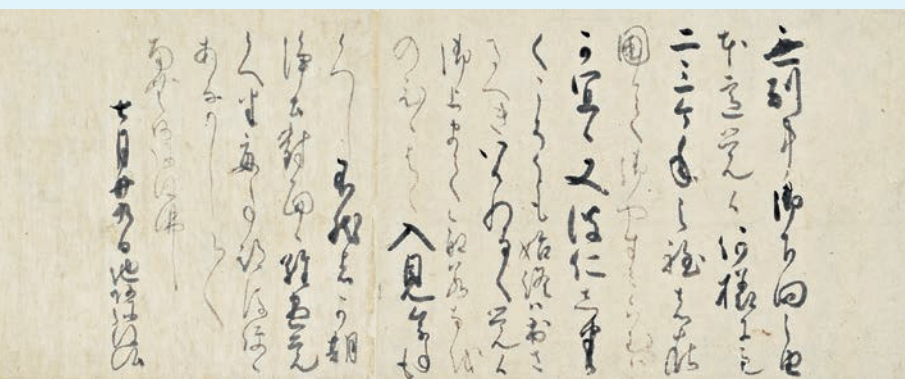
あみえ
阿弥衣

室町時代 一領 兵庫・興長寺蔵

麻を編んだ粗い布からつくられた、時宗特有の法衣です。

重要文化財 真教上人書状
(遊行歴代他阿弥陀仏書状類のうち)
鎌倉時代 一巻 京都・長楽寺蔵

真教が寿阿弥陀仏にあてた自筆の手紙。命長らえて再会する時もありましたが、これが叶わなければ浄土で対面しようとの内容からは、兩人ともかなりの高齢であったことがうかがえます。



蓮華形下駄
室町・桃山時代 一足
京都・正法寺蔵

国阿が用いたと
伝えられ
る蓮華を
かたどった
下駄です。



遊行上人縁起絵断簡
鎌倉時代 一幅 奈良・大和文華館蔵

絵巻物の一部を切り出した「断簡」で、一遍が信濃国ではじめて踊り念仏をおこなった場面です。近年の研究で、数多く残る「遊行上人縁起絵」のうち、もっとも古いもの(祖本)である可能性が指摘されました。



重要文化財 遊行上人縁起絵
鎌倉時代 十巻 兵庫・真光寺蔵

一遍の事績を表した絵巻物には、国宝「一遍聖絵」とは異なる系統の作品群が存在します。それが「遊行上人縁起絵」で、一遍だけでなく、真教の事績も収録する点に特徴があります。「聖絵」よりも流布したらしく、多くの作例が残っており、時衆教団の広がりには大きな役割を果たしました。



国宝「一遍聖絵」全12巻全巻公開！



巻6 富士山が描かれた場面

念仏を広めるため日本各地を遊行し、多くの人々に救済を施した一遍。この偉大な聖を称えるため、没後、彼の生涯は12巻に及ぶ絵巻物に描き出されました。それが鎌倉時代の国宝「一遍聖絵」です。正安元年（1299）、一遍の高弟・聖戒が著述し、円伊という絵師によって制作されました。美しい絵具で彩られた山水や寺社、ひとりひとり異なる表情で描かれた何百もの名もなき人々——それらは中世の日本絵画



巻2 奇石がそびえる伊予国（愛媛県）で修行！

として第一級の出来映えを誇ります。長大な画面に映し出された一遍の旅路は、きっと現代のわれわれの心にも、豊かな感動をもたらしてくれることでしょう。

本展では、この日本美術史上屈指の名品を全巻公開いたします。全巻が一堂に会するのは、関西ではなんと17年ぶり。本物でしか味わえない感動に浸れる貴重なこの機会、決してお見逃しなく。

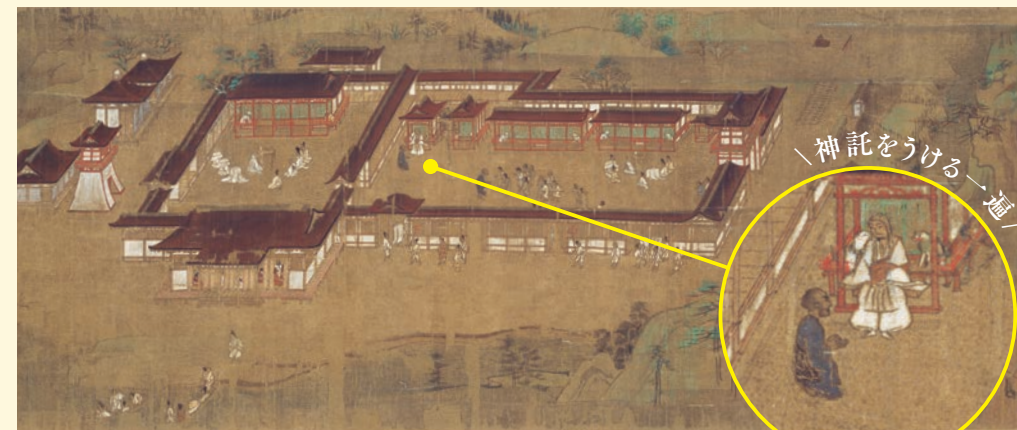
3

国宝 一遍聖絵 円伊筆

鎌倉時代 十二巻 神奈川・清浄光寺（遊行寺蔵）

熊野で熊野権現より神託！

（時宗ではこれを開宗と定めています。）



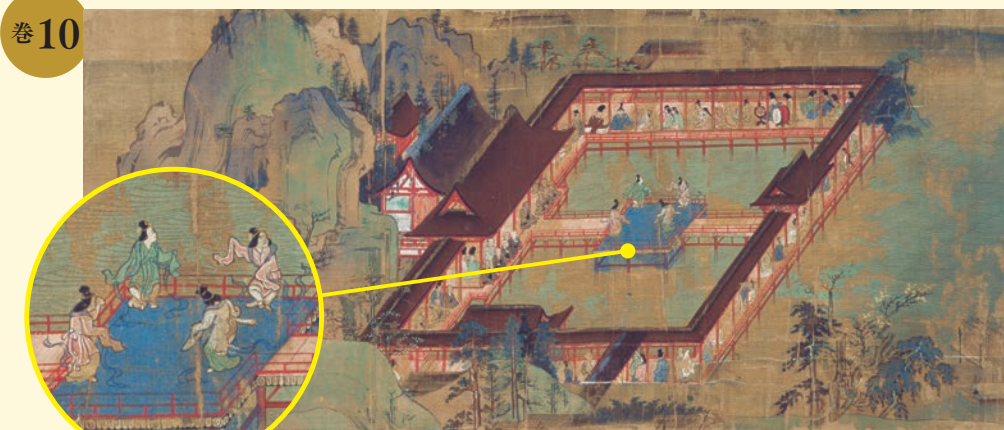
武士に鎌倉入りを妨害されるも、毅然と立ち向かう！



巻7

京都の市屋道場で踊り念仏！

国宝 一遍聖絵 巻七 円伊筆
鎌倉時代 一卷 東京国立博物館

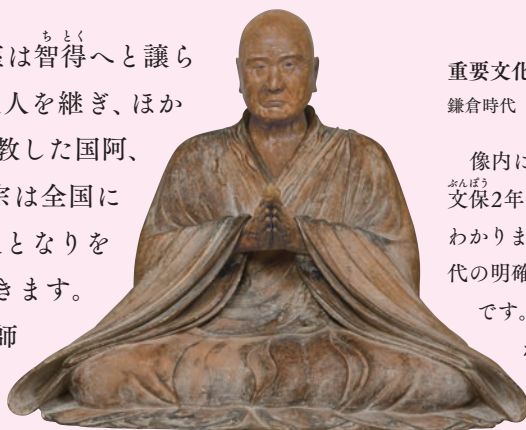


巻10

安芸国（広島県）の厳島神社で華麗な舞を鑑賞！

4 歴代上人と遊行 時宗のひろまり

真教は相模の当麻に道場を創建し、遊行上人の座は智得へと譲られます。その後も吞海、安国、一鎮、託何らが遊行上人を継ぎ、ほかにも京都四条に道場を開いた真観、東山を中心に布教した国阿、当麻を拠点とした真光らの活躍などによって、時宗は全国に広まっていきました。本章ではこれら上人たちの人となりやうかがうことができる肖像や墨跡をごらんいただきます。歴代上人の肖像彫刻は七条仏師など当時の有力仏師によるものも多く、本人の特徴をよく伝えています。



重要文化財 真教上人坐像
鎌倉時代 一軀 神奈川・蓮台寺蔵

像内に墨書があり、没する前年の文保2年(1318)につくられたことがわかります。時宗祖師像のなかで、年代の明確なものとしては一番古い像です。病のせいで顔の右半分がゆがんだ容貌まで、とても写実的に表現されています。

5 時宗の道場とその名宝

時宗では寺院を道場と呼びます。関東では真教が開いた当麻道場(無量光寺)、遊行寺の名でもしられる藤沢道場(清浄光寺)、京都においては真観の四条道場(金蓮寺)、聖戒の六条道場(歓喜光寺)、吞海の七条道場(金光寺)、一鎮の一条道場(迎称寺)などが築かれ、全国の要所にも道場が置かれました。本章では、それら時宗道場のなかで、藤沢および京都・滋賀の道場に伝えられた名宝を中心にご覧いただきます。また、近世の時宗道場を描く洛中洛外図なども展示いたします。



重要文化財 後醍醐天皇像
南北朝時代 一幅 神奈川・清浄光寺蔵

鎌倉幕府を滅ぼし、建武の新政をおこなった後醍醐天皇の、きわめて特異な肖像画。密教法具を持ち、袈裟を身につけ、上部には神名を記した紙が貼られています。遊行12代の尊観が清浄光寺に伝えたとはいいます。

重要美術品 薄鶉蒔絵文台
室町時代 一基 京都・金蓮寺蔵

薄野に鶉が遊ぶ長閑な景色の文台。歌会や香席などで、懐紙や短冊をのせて歌を読みあげるときに用いる机です。近世には定形化しますが、本品は飾り金具もなく、華奢で古様。足利義政(1436~90)寄進と伝えられます。



重要文化財 阿弥陀如来立像
鎌倉時代 一軀 滋賀・阿弥陀寺蔵

鎌倉時代に入り、阿弥陀の浄土への信仰が隆盛を迎えると、三尺(90センチ前後)の大きさの阿弥陀如来立像が多くつくられました。それを得意としたのが仏師快慶です。本像は快慶の弟子行快によって造立されました。



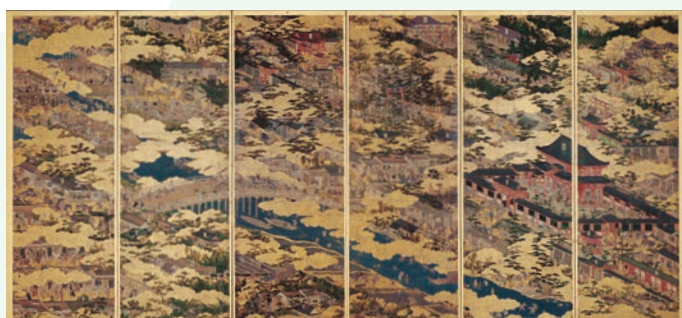
写真提供：天津市歴史博物館



国宝 洛中洛外図屏風(舟木本)

岩佐又兵衛筆 江戸時代 六曲一雙 東京国立博物館蔵

京の街並みを南西から眺めた景観で、右隻は方広寺や祇園社など東山一帯、対して左隻は内裏や二条城など洛中の様子が中心に描かれています。精彩に富んだ風俗描写に優れ、17世紀初頭の都の喧騒と享楽を余すことなく伝えています。四条道場、七条道場の様子が見えます。



(右隻)

一遍遊行の地

延応元年(1239)伊予で誕生～正応二年(1289)8月23日往生までの遊行地

- ① 巻1 延応元年(1239)～文永八年(1271)
- ② 巻2 文永十年(1273)～文永十一年(1274)
- ③ 巻3 文永十一年(1274)～建治二年(1276)
- ④ 巻4 建治二年(1276)～弘安二年(1279)
- ⑤ 巻5 弘安二年(1279)～弘安五年(1282)
- ⑥ 巻6 弘安五年(1282)～弘安六年(1283)
- ⑦ 巻7 弘安六年(1283)～弘安七年(1284)
- ⑧ 巻8 弘安七年(1284)～弘安九年(1286)
- ⑨ 巻9 弘安九年(1286)～弘安十年(1287)
- ⑩ 巻10 弘安十年(1287)～正応元年(1288)
- ⑪ 巻11 正応二年(1289)
- ⑫ 巻12 正応二年(1289)

※地図中の丸数字は「一遍聖絵」の掲載巻



『国宝 一遍聖絵』(遊行寺宝物館など、2015年)227頁地図より作成

国宝 一遍聖絵 巻四(踊り念仏の様子) 神奈川・清浄光寺(遊行寺)蔵

開催概要

会 期：2019年4月13日(土)～6月9日(日)
 ※会期中に一部作品の展示替を行います。
 開館時間：午前9時30分～午後6時まで、金・土曜日は午後8時まで
 (入館は閉館の30分前まで)
 休 館 日：月曜日(ただし、4月29日と5月6日は開館)、5月7日(火)
 主 催：京都国立博物館、朝日新聞社、時宗、
 時宗総本山清浄光寺(遊行寺)

観覧料(税込)

	一般	大学生	高校生
当日	1500	1200	900
前売・団体料金	1300	1000	700

※団体料金は20名以上

※中学生以下無料、障害者とその介護者1名は無料(入館の際に障害者手帳などをご提示ください)

※キャンパスメンバーズは、学生証または教職員証をご提示いただくと、当日の各通常料金より500円引きとなります

※前売り券の販売期間は4月12日(金)まで

本件に関するお問い合わせ

特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」
 広報事務局(共同PR)内：三井

TEL：03-3575-9823

FAX：0120-653-545

E-mail：jishu2019-pr@kyodo-pr.co.jp

〒104-8158

東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル7階

京都国立博物館

平成知新館(東山七条) KYOTO NATIONAL MUSEUM

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

お問い合わせ 075-525-2473(テレホンサービス)

<https://www.kyohaku.go.jp/>